

斑点米カメムシ類情報第2号

令和3年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**水田周辺の畦畔での斑点米カメムシ類の発生が多い状況です
出穂に伴い、本田に侵入、加害する可能性があるため注意が必要です**

1 発生状況

7月下旬に県内52地点104ほ場で行った本田における20回すくい取り調査において、斑点米カメムシ類の捕獲数は平年並でした。しかし、7月下旬に県内52地点103ほ場で行った水田周辺の畦畔雑草の20回すくい取り調査では、**斑点米カメムシ類の捕獲数は、9.34頭（平年5.50頭、前年3.12頭）と過去10年で最も多い状況です。**主な種は、カスミカメ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）とミナミアオカメムシです。今後、水稻の出穂後に斑点米カメムシ類が本田に侵入し、加害するおそれがあるため、注意が必要です。

2 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などに生えるイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、**出穂2～3週間前までに除草を徹底しましょう。**ただし、出穂直前の除草は本田にカメムシを追い込むおそれがあるため、注意しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、カメムシ類の発生が多い時は**出穂期前後から穂揃期に表を参考にして薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。**

使用する薬剤により防除時期が異なるので注意しましょう。

なお、イネカメムシの防除対策については、7月16日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2B
スタークル液剤10 スタークル／アルバリン粒剤 スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	3回以内	4A

キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意しましょう。

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRACコードの詳細はhttps://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdfを参照してください。

ネオニコチノイド系の農薬（IRAC：4A）の薬剤を使用する場合は、ミツバチに影響が出ないように配慮しましょう。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。